

平成30年度
事業報告書

日本リザルツ平成31年2月8日作成



03 MARCH

2018 年 03 月 01 日

こころのじかん

釜石の雪景色。

数センチは積りましたが、たった一日で消えてしまいました。

春の足音が聞こえてきそうな日和が続いております。



岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 心のケア班市民講座

こころのじかん『心理学の立場から宗教を考える』

講師：岩手大学人文社会科学部 奥野雅子准教授

先日、上記講座を受講いたしました。宗教と心理学の協働が、大きなテーマとなっております。この二つを組み合わせることによって、効果的な支援に繋げることが可能になるかもしれないとのことです。参加者からも、宗教と心理学についての意見が多くあり、活気ある講座でした。今後の支援に是非、活かしていきたいものです。



2018 年 03 月 03 日

カンゲミ結核検査所 基礎工事

日本リザルツはケニアのスラム街・カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。現在、より良い医療サービスを実施するために結核検査所を建設しています。基礎工事の様子を写真たっぷりでお届けいたします。



建物の柱となる部分の強度を左右する鉄筋です。太さが 16 mm の鋼材を使用して作成しています。



土台となる鉄筋の組立て作業です。



柱と柱の間の寸法や、柱が垂直に立っているかどうかを確認しました。また、柱と柱の間には石を積んで、補強をしていきます。この石も同じ高さに積まれているか確認しました。

より頑丈な建物にするために、フロアの高さを計測し、作業員に修正方法を伝えました。その上、今後は雨季に入るため、工事が滞りなく進むよう、スケジュール調整も行いました。最後に、安全の基本であるヘルメット着用を守るよう全員に周知しました。無事に工事が進むことを祈っています！



2018 年 03 月 05 日

ケニアでも風揚げします！

日本では 3 月 11 日の東日本大震災に合わせ、釜石、春日部で風揚げが行われます。

それに加え今年は、なんとケニアでも世界結核の日(3 月 24 日)に合わせて風揚げをすることになりました！

日時:3 月 23 日(金)14 時～16 時

場所:カンゲミ地区のグラウンド

以下 3 つの「初めて」の試みがあります。

1. ケニアの子どもたちが「初めて」風作りに挑戦

ガザ・釜石同様、ケニアの子どもたちにも毎年風を揚げられるようになってほしい！ということで、日本リザルツケニアオフィスのスタッフが学校を訪問し、先生方と子どもたちに風の作り方を教えます。ケニアでは風を揚げる習慣はなく、子どもたちにとっては「初めて」の試みになります。風が上手く揚がるかどうかは、当日の様子をご紹介しますので、楽しみにしてくださいね。

2.「初めて」の大風揚げ

今回、春日部に負けまいと、ケニアでも大風揚げに挑戦します。1500 人の子どもたちが集まる予定です。

日本リザルツの建築担当、且つ、夙職人の藤波慎吾さんが大風を作ってくださいます。助手はカンゲミ地区で活動を行う際、警備をしてくださっている警察官のデニスさんとロティチさんです。「僕たちも風を作りたい」と、ボランティアで力仕事をお手伝いして下さることになりました。



デニスさんはすでに折り鶴をマスターしました。



優しいロティチさん。竹を運ぶのもお手伝いしていただきました。力強い助手 2 人のもと、無事に大風はケニアの空を舞うことができるのか？ご期待ください。



3.「初めて」の一大イベント企画

このイベントを取り仕切っているのは、日本リザルツケニア事務所の職員アブタさんです。国際的なイベントを取り仕切るのは、初めてです。イベントの成功に向けて、今日も一生懸命準備をしてくださっています。



アブタさんは、なんと、在ケニア日本国大使館の植澤大使にもお目にかかったことがあります。頑張っているアブタさん、そして他のスタッフの皆さんのためにも、イベントの成功に向けて精一杯サポートを行っていきたいと思います。

右の写真はアブタさん作成のチラシ。



WORLD TB DAY PREPARATIONS AT THE FEVERPITCH

In efforts to make the most colorful event, we have set to train teachers this week, on Thursday and Friday. This effort is aimed at making the teachers aware of the TB messages, and the kite making process. With the teachers aware of this, they will teach the other students on self-skills for the making of kites. It is expected that over 1500 students will be present for the biggest kite event in Kenya. A number of partners have expressed interest and have confirmed attendance. In essence, the event aims to make children aware of TB, as well as express their solidarity with other children elsewhere in the world, who are as equally disadvantaged.

We, RESULTS Japan Kenya Office, with support from Yuko, believe that we will accomplish a great event.

『風揚げ in 釜石』&『釜石☆ガザ交流会』

今年も釜石市の有志たちが集まり「釜石・ガザ風揚げ交流会実行委員会」が発足、毎年恒例の風揚げ大会が開催されました。日本リザルツでは「世界風揚げ交流会@春日部」を3月18日に開催いたします。

日時:3月18日(日) 13:00~15:00

会場:庄和総合公園

▶春日部から世界へ！

毎年5月3日、5日に大風揚げ祭りが開催される『大風の里 春日部』。春日部の伝統文化を活かし、その魅力を日本、そして世界に発信しましょう！



▶結核のない世界へ！

かつて日本でも亡国病と呼ばれた結核。今こそ、世界中から結核を根絶しようというメッセージを発信しましょう。3月24日は「世界結核の日」です。日本は2020年までに結核低まん延国にすることを目標としています。

▶世界中の人たちの心を一つに！

遠く離れた世界中の人たちと、この風揚げイベントを通して、空と心で繋がりましょう！当日会場では、企業PR出店、飲食・物品販売が可能です。PR出店などご希望の方はご連絡ください。



[お知らせ]世界トイレ大革命・イベントの紹介

世界トイレ大革命の関連で、JICAさんから面白いイベントを紹介していただきました。2018年3月29日(木)18:30-20:00で、毎日新聞、講談社と協力して、「もったいないばあさんインドに行く～読み聞かせで環境衛生改善を～」というイベントを行います。

これは、JICAの民間連携事業を使って、日本の「もったいないばあさん」シリーズの絵本をヒンディー語・英語併記で、インドにて出版し、環境衛生改善に向けた啓発活動に役立ててもらい、日本企業のビジネスにもつながるというものになっています。今後、インドで使われている他の言語にも翻訳が予定されています。「もったいないばあさん」という言葉に、ミセス・トイレ白須も興味津々でした。

生憎、トイレ・ガール長坂は、ケニアにいて、行けないのですが、とても面白そうなイベントですので、是非、皆さん足を運んでみては如何でしょうか？

2018年03月07日

UHC シンポジウム「誰一人取り残さないユニバーサル・ヘルス・カバレッジを実現するには」

UHC シンポジウム「誰一人取り残さないユニバーサル・ヘルス・カバレッジを実現するには～UHCと市民社会の役割から考える～」が、3月6日14:30～16:30、なかぎんカプセルタワービルで開催され、日本リザルツから小平が出席しました。このシンポジウムは、外務省 NGO 活動環境整備支援事業 NGO 研究会「グローバルヘルスと NGO」(主催:ジョイセフ)の一貫で行われたものです。第一部は セーブ・ザ・チルドレン、アフリカ日本協議会、アジア砒素ネットワークによるアドボカシー活動や、現場の事業の発表がありました。第二部は、東京女子医科大学の杉下先生と外務省の鷲見国際保健政策室長によるお話を頂戴した後、登壇者の方々、参加者とのパネルディスカッションが行われました。

昨年末、我が国で開催された UHC フォーラムを受けてまだ2か月、これから、TICAD、G20、2020年東京サミット始め、大きな会議が相次ぐ中で、「持続可能な開発目標」(SDGs)の基本精神である「誰一人取り残さない」という考え方を守っていくため、市民社会、NGOとして心をつなげて活動していこうと、参加者の皆さんの気持ちが一つになったように感じました。杉下先生からの「誰一人取り残さないという考え方を NGO の専門家だけでなく、国民一般にも広げることが重要だ。参加者の方は家に持ち帰って伝えてほしい」というメッセージが、心に残りました。

湯浅さん来所

以前リザルツでインターンをされていた湯浅さんがケニアの子供たちの為に靴を持ってきてくれました。



第二回国際・アジア健康構想協議会

第二回国際・アジア健康構想協議会(議長:和泉洋人内閣官房健康・医療戦略室長)が、3月7日、14時~16時、千代田区丸の内の SMBC ホールで開催され、日本リザルツからは、白須代表及び小平が出席しました。



平成29年度通常理事会・総会について

3月5日に開催された平成29年度通常理事会及び総会は、全ての議案が承認され、滞りなく終了しました。ここでは、平成29年度の事業報告に的を絞って簡潔に報告します。日本リザルツでは、平成29年全体目標を示し、これに基づいて平成29年1月1日から12月31日までの間、事業を実施しました。全体目標は、(1)メイン事業、(2)重点事業、及び(3)基盤事業、の3つのカテゴリーに分かれています。

(1)メイン事業

- ①結核、Gavi、ポリオ、グローバルファンド等への支援体制の維持・拡大
- ②ケニア・ナイロビ市での結核アドボカシープロジェクトの推進

(2)重点事業

- ①パレスチナ難民問題に取り組む UNRWA のキャンペーン事務局としてのアドボカシー活動
- ②離婚と親子の相談室「らぽーる」が子どもの幸せを中心に据えた取り組み
- ③世界の栄養不良問題に対する国際栄養改善問題を中心に、TICAD 等に向けたアドボカシー活動
- ④スナノミ症対策へのさらなる取り組み

(3)基盤事業

- ①東日本復興支援活動(世界風揚げ交流会など)
- ②国際連帯税活動へのさらなる取り組み

具体的な事業は、上記の枠組みのもとで、着実に行われ、その詳細は、日々のブログで報告しております。日本リザルツでは、これらのブログを集大成し、報告書として取り纏めています。詳しくは、HP においてご紹介する予定です。平成 29 年度事業をご承認いただく中で、特にケニア・ナイロビ市での結核アドボカシープロジェクトの事業について関心が集まりました。平成 28 年度から開始されている本事業は本年度第 2 期も実行中

で、すでに第3期の検討も始まっております。理事の皆様からは、「本事業は規模も拡大しており、国民の税金によって行われている事業であることを改めて認識した上で、的確にプロジェクトの遂行をするように」とのご指摘がありました。このことを肝に銘じ、しっかりと事業を推進していきます。

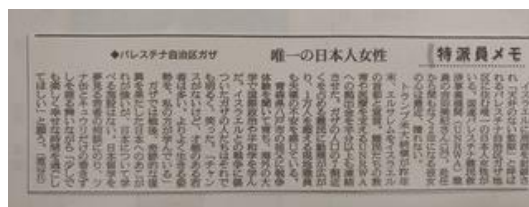


[メディア掲載]UNRWA 関係

2つの記事を紹介いたします。

本日3月7日付朝日新聞に掲載されている「特派員メモ～唯一の日本人女性～」に、日本リザルツの前職員で「パレスチナ・ガザ地区に住む唯一の日本人女性」である吉田美紀さんが紹介されています。私も2016年の風揚げ大会@釜石では一緒にお仕事をさせていただきました。懐かしいです。

また、3月1日付朝日新聞の「私の視点」で上智大学教授の植木安弘氏の寄稿が掲載されていました。



2018年03月09日

復興の鐘(岩手県釜石市)

日本リザルツでは「復興の鐘」が建設された2011年から毎年3月に鐘を鳴らしています。先日、釜石を訪問した白須代表も、鐘を鳴らしてきました。



この復興の鐘は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の犠牲者を慰霊し、被さいされた多くの方々の希望の鐘となることを願い、釜石駅前に建立されました。全国 1 万人もの方々に 1 枚 300 円の「釜石復興の風うちわ」を購入していただき、その支援資金と寄付金によって完成されました。鐘の側面には、4 つの文字が刻まれています。大震災で亡くなった多くの方々への「鎮魂の鐘」、被さいした郷土の復活を願う「復興の鐘」、この震災を忘れず後世に伝える「記憶の鐘」、そしてだれもが持ち続けなければならない「希望の鐘」です。鐘を囲むモニュメントは、合掌をデザインしています。

(出典:「復興の鐘」石碑より)



2018 年 03 月 10 日

ナイロビ カンゲミ結核検査所

日本リザルツはケニアのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。現在、より良い医療サービスを実施するために結核検査所を建設しています。

工事風景をご覧ください。

建物外周の基礎を固めた後、補強用のブロックを積み、柱を設置します。その後に、地下部分に土を戻し、転圧作業(機械で土を固める作業)をしました。周囲の工事が終わったので、次は、建物中央部の基礎工事に移ります。



中央部の工事でもまずは掘削から始まります。次に、水平・垂直を確認しながら、1 本ずつ柱を立てていきます。そして、より頑丈にするためにコンクリートを流し込みます。



その上から、ブロックを積み上げて、さらに補強をします。



そして、土を戻して、転圧をします。



最後に碎石を敷いて、鉄筋・ワイヤーメッシュを組立てていきます。今週で柱部分の工事はほぼ終わりました。来週、月曜日からコンクリート打設工事を行います。



2018 年 03 月 11 日

GGG+フォーラムケニア版 開催決定！

日本リザルツの一大イベント、GGG+フォーラム。なんと、今年はケニアでも開催します！今回の GGG+フォーラム 2018 in Kenya では、ケニア保健省はじめ、ケニア政府と一体となって、会議を実施します。史上初めての試みです。すでに、共催をしてくださる現地 NGO の KANCO と、毎週のように打ち合わせを行い、会の成功に向けて着々と準備を進めています。

詳細は以下の通りです。

GGG+フォーラム 2018 in Kenya: アフリカの UHC と SDGs の実現に向けて

場所: ジャカランダホテル(大会議室)、ナイロビ、ケニア

主催: 日本リザルツ、ケニア政府

共催: ACTION, KANCO, WACI, Stop 結核パートナーシップ

ケニア

日時: 2018 年 7 月 31 日 (水), 9:00-15:00 (昼食

12:00-13:00) 7:30-9:00 GGG+フォーラム特別会合

第一部: 9:00-10:30/GGG, 結核, ポリオ, ワクチン

第二部: 10:30-12:00/ 栄養, 難民

第三部: 13:00-15:00/ 公衆衛生, トイレ, 女性と子ども

概要: GGG+フォーラム 2017 は、UHC フォーラム 2017 に向けて、日本政府の UHC と SDGs を推進するために行われた。Global Fund、Gavi、GHIT Fund、WHO、UNICEF、GPEI、UNDP など、グローバルヘルスに寄与する関係各機関の要人をはじめ、450 人がフォーラムに参加し、闊達な議論が行われた。このフォーラムを起爆剤にし、日本政府は 2017 年 12 月、UHC フォーラムを開催した。フォーラムでは、安倍首相が 29 億ドルの拠出を明言するなど、大成功を収めた。ケニアは TICAD VI を開催するなど、日本の外交におけるターゲット国である。GGG+フォーラム 2018 in Kenya では、ケニア、そして他のアフリカ諸国が日本と連携して、どのように UHC と SDGs の実現を目指すかを議論する。

日本からも是非、多くの方の参加をお待ちしております。

2018 年 03 月 12 日

World TB Day 2018

日本リザルツケニア事務所は、3月24日の世界結核の日に合わせて、3月23日に風揚げイベントを開催します。今年の目玉は、春日部に負けない大風を揚げることです！私たちは、約3mの風作りの準備を始めました。まずはケニア・ナイロビで竹を探しに行きました。ちょうど良い竹を見つけて地主さんと交渉して竹を譲ってもらいました。



ナタで竹を割っていると、最初にケニアスタッフのアブタ君が私もやりたいと、興味津々で訪ねてきたので教えてあげました。



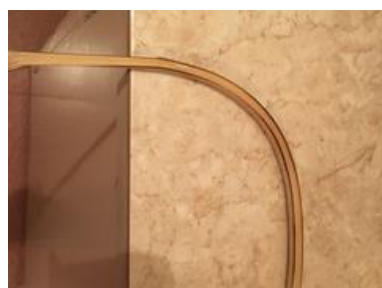
その後、続々とドライバーのジェームスさん、警察官のデニスさん、ロティチさん、ホテルのオーナーさんや従業員まで興味津々で集まり出したので、みんなで凧作りを始めました。



割った竹をカンナで削り、竹を組立て凧のフレームを作ります。



フレームのコーナー部分を作ります。コンロで竹をあぶって、ゆっくりと曲げていきます。これは職人技があるので、大凧作り職人の私・藤波が1つ1つ丁寧にやりました。



フレームの組み立てが出来上がったら、次は、親骨、たすきを取り付けます。



最後に紙を貼り、乾かします。今週の土日には絵付けを行います。素敵な風が、ケニアの大空を舞うことを楽しみにしています！



アブタ君作成のチラシはこちら。



STUDENTS LEARN HOW TO MAKE KITES AHEAD OF WORLD TB DAY

On Friday, March 9, 2018, we had a session for training children how to make kites. We were at Kangemi primary school. We had a discussion with the students about TB at first, so that we make them understand the main reason of having the event being conducted. With their understanding, it would be better to engage them, and make them aware of the effects of the disease.

Later, we asked them to make their ideas about kites, upon which we showed them how best to carry the kite making affair. With the children getting hands on skills, they will be best placed to implement the activities in the later years, and much better. The teachers as well were very



supportive. They will have a much more engaging encounter with the students when they teach them how to make kites. It is our believe that with this kind of exchange, we will be best placed to carry out one of the most inspiring activities of recent times.

Many special thanks to Shingo Fujinami, Yuko Nagasaka, Inspector of Police Dennis, and the teachers of the Kangemi Primary School.



世界凧揚げ交流会@春日部①「結核凧完成」

こちらの結核凧は縦 1.8m 横 1.4m と巨大!!人間の背丈ほどあります。



3月18日当日には春日部凧も大空を舞います。ぜひ、3月18日「庄和総合公園」にてお待ちしております。まだ、当日のボランティアも募集しております。人手が足りないので、ご協力のほどよろしくお願いします。

5月5日には100畳もの大凧が空を舞います。私も筆入りの際にお伺いしましたが、「圧巻」でした。



アフリカの子どもたちに靴を！

ちょうど一年前の3月13日の参議院予算委員会で、佐々木さやか参議院議員がスナノミ症について国会質問をされました。本日3月13日、公明党の神奈川県本部ニュースに「アフリカの子どもたちに笑顔を！」と題した佐々木先生の記事が掲載されましたのでお知らせします。



世界風揚げ交流会@春日部②「セレモニー」

【世界風揚げ交流会@春日部】

世界をつなぐ大空へ ～風揚げから始まる
子どもたちの平和と健康な未来～

日時:2018年3月18日(13:00～:セレ
モニー)

会場:庄和総合公園(埼玉県春日部市)

参加費:無料



【結核風】

かつて日本でも亡国病と呼ばれた結核。世界中から根絶しようというメッセージを発信しましょう！

3月24日は「世界結核の日」です。日本は2020年までに結核低まん延国にすることを目標としています。



【セレモニー】



石川良三・春日部市長



三ツ林裕巳・衆議院議員



土屋品子・衆議院議員

以上の方々がご来場されます。

素晴らしい会になるよう、頑張ります。

世界風揚げ交流会@春日部③「風作り!!」

3月18日開催の「世界風揚げ交流会@春日部」に向けて、東京事務所にて風作りをしています!!

ボランティアの方々に感謝感激です。

当日は「庄和大風文化保存会」が50名限定で風作り教室を開催します。

ぜひ、今週末「大風の里 春日部」にお越しください。



2018 年 03 月 14 日

世界凧揚げ交流会@春日部④「春日部市 HP にイベント情報が公開」

世界をつなぐ大空へ

～凧揚げから始まる子どもたちの平和と健康な未来～

毎年、日本から遠く離れたパレスチナ・ガザ地区では、東日本大震災の被災者を思い、追悼凧揚げが行われています。

今年は、ガザと、江戸時代から大凧の伝統を現代に伝える春日部をつなぎます。会場内にて無料で配布する凧にイラストやメッセージを描き、みんなで凧揚げを通じて、遠く離れた世界中の人たちと、空でつながり、心でつながりましょう。

当日は飲食店の出店もあり、家族みんなで楽しめます。



7 年

2018 年 3 月 11 日、あの日から 7 年。

釜石に移住して間もない頃、地域の方からお聴きした一言が思い出されます。『和賀さん。皆さん、復興、復興って言うけれど、ここに住む自分たちは、日々を精一杯、過ごしているだけなんだよね…。皆さんの言う【復興】って、何なんだろうね…。答えやゴールはあるものなのかな。』

3 月 11 日、メディアは各地の光景を映し出していました。《あの日を忘れない》ことは大切です。

一方で《あの日を忘れたくても、忘れられない》方々がいることも事実です。

3 月 12 日

相談室に来室された小学 3 年生(9 歳)が、私にプレゼントしてくれた、『ハートの形をした石』。彼が長年、大切にしていた宝物だそうです。『あれから 7 年経ったから、ラッキー 7 で幸運が訪れますように。』と、満面の笑顔で贈ってくれました。今後もここ釜石で心の支援のお手伝いをさせていただきたいと、強く感じたエピソードでした。



2018 年 03 月 15 日

ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会の開催について

3 月 14 日(水)、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会が、参議院会館地下一階 B104 会議室で開催されました。大変お忙しい中、足をお運びいただいた皆様、誠にありがとうございました。

当日は、20 名以上の議員の方々と外務省、厚生労働省、経済産業省の省庁関係者、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本、医薬品関連企業（5 社）、NGO の方々など総勢 70 名以上の皆様が参加され、熱心な討議が行われました。

総会では、(1)「平成 30 年度結核関連予算」について厚生労働省、外務省よりヒアリング、(2)国連ハイレベル会合及び結核に関する最近の動向、の 2 つの議題について討議が行われました。平成 30 年度の結核関連予算については、厚生労働省から、結核患者入院医療費等の通常予算は、前年度と同額を確保し、高齢者対策として、結核だけでなく様々な病気を抱える患者の対策に重点を置いていくことが説明されました。

外務省からは、エイズ・結核・マラリア対策基金であるグローバルファンドへの拠出金の動向と、更なる強化を図るため、来るべき6次増資に向けた取り組み、JICA への無償資金協力の取り組み、GHIT への支援を通じた医薬品開発に向けた投資支援などの説明がありました。

また、結核に関する年内の外交日程として、9 月の国連総会における結核ハイレベル会合、それに先立ち、4 月末の世界結核議連会合が開催されます。議連の活動予定として、同会合へは、議連の先生の参加が検討されているところです。

政府によるご説明に引き続き、貧困削減で大きな貢献をされているビル＆メリンダ・ゲイツ財団から、結核対策を重点項目として位置付けており、より安価で効果的な診断ツールの開発、より効果的な投薬レジメンの開発、改良型ワクチン開発などの取り組みについてご説明がありました。また、ストップ結核パートナーシップ日本の森亨先生から、結核対策の最近の動向について詳細なご説明を頂きました。最後に、医薬品等関連企業（5 社）から、結核対策に係る各社の最新の取り組みについてご説明を頂きました。

説明を受けての質疑では、議連の先生から、我が国における結核の増加の 2 大要因である、高齢者と在留外国人の結核罹患について問題提起が行われ、活発な意見交換が行われました。

最後になりますが、日本は、結核罹患率は人口 10 万対率が 13.9 と、先進諸国の中でも高く、未だに結核中まん延国であると言う厳しい事実を改めて認識し、2020 年の東京オリパラにおいて低まん延国レベルを達成することが緊急課題です。限られた時間でしたが、議連、政府、団体、企業、NGO などオールジャパンの取り組みを行ってこうと、参加者の気持ちが一一致した素晴らしい会議となりました。



ガザの風揚げ大会

3月13日付の毎日新聞に「パレスチナ自治区ガザで東日本大震災からの復興を願って風揚げ大会が行われた。」という記事が掲載された。トランプ大統領のエルサレムを首都にという声明が発表されてからガザ地区の情勢が危ぶまれているが、風揚げを通じて震災のあった釜石市との交流を続けるガザの子供たちにもいち早く平和が訪れることを切に祈る。

本日、立憲民主党「つながる本部」SDGs 懇談会開催

本日、立憲民主党「つながる本部」SDGs 懇談会が開催されますので、添付したようなチラシをもって参加してきます。朝日新聞の記事をお借りしましたが、ざっと目を通していただければ嬉しいです。なお、タイトルの「国際観光旅客税：一人占めしていいの？」も岩手日報の論説からお借りしました。ところで、国際観光旅客税ですが、3月2日に衆議院財務金融委員会でも可決され、今後参議院での議論となりますが、議論に入る前に「森友文書改ざん問題」でストップしています。



風づくりをしました【世界風揚げ交流会@春日部にむけて】

昨年、日本リザルツでインターンをしていた浅松です。12日から15日まで日本リザルツにボランティアで来ました！リザルツは今日の18日に世界風揚げ交流会@春日部を行う予定です。私は三日間、風作りをさせていただきました。風作り、とっても楽しかったです。18日は晴れるといいですね。





世界風揚げ交流会@春日部についての詳細はこちらです。↓
皆さんぜひ参加してくださいね！



2018 年 03 月 16 日

らぽーるのこと伝えたい ーらぽーるチラシを置かせていただけるところを大募集ー

離婚と親子の相談室らぽーるで相談員をしている嶋貫養子です。皆様ご存知の通り、らぽーるは子どもファースト離婚を推進したい相談室で、

- ・相談事業
- ・親教育プログラム
- ・協議離婚または別居時において養育計画合意書の作成を援助するADR

を柱として活動しています。

しかし、らぽーる相談室の存在がなかなか人々に周知されていません。それが悲しい現状なのです。らぽーるのことを知って、利用していただければ、お父さん、お母さんが別居しても幸せになる子どもは増えるはずです。そこで、らぽーるのチラシを置かせていただける場所を大募集します。「うちの店先においてもいいよ」「うちの塀に貼ってもいいよ」「こんな宣伝方法が効果あるんじゃない」などのグットアイディアがありましたら、大歓迎です。皆様からの声をぜひ、らぽーるにお寄せください。3月18日に春日部で開催される風揚げ大会『世界をつなぐ大空へ』でも、らぽーる風が天空を舞います。



【記事紹介】トランプ氏拠出金凍結の国連機関、日本企業が寄付で協力

素晴らしい記事がトップニュースになっていましたので、紹介いたします。
(日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしています。)



【朝日新聞】トランプ氏拠出金凍結の国連機関、日本企業が寄付で協力

=== 以下引用 ===

トランプ米大統領が拠出金の半分以上を凍結させた国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)が、個人の寄付を含む世界的な資金調達キャンペーンを展開している。これに賛同した日本の企業がインターネット上で寄付金を募り始めた。目標は1億円。国連機関を対象にしたクラウドファンディングは極めて異例だ。

最大の支援国・米国の拠出金凍結で未曾有の財政危機に陥ったUNRWAは1月下旬、5億ドル(約315億円)を目標とする資金調達キャンペーンを開始。これまで頼りにしてきた各国政府などだけでなく、個人にも寄付を要請した。

東京のファンド運営会社ミュージックセキュリティーズの小松真実(まさみ)社長(42)はUNRWA幹部から苦境を聞き、「日本の個人の思いのこもった資金をパレスチナ難民支援に役立ててほしい」と協力を申し出た。同社は東日本大震災の被災地支援のファンドを作り、半額寄付・半額出資の形では3万人から11億円を集めた実績がある。UNRWAには全額を寄付する。

UNRWAは1949年に設立され、パレスチナ自治区や隣国ヨルダン、レバノンなどでパレスチナ難民530万人超に教育や医療、食料などの支援をしている。小松社長は「十分な教育が受けられなければ、子どもが夢を持てなくなる。日本は中間層が多く、一人ひとりが世界の問題に貢献できる」と話す。(エルサレム＝渡辺丘)

実はこの企画、白須代表のアイデアかと、UNRWA 清田保健局長、ミュージックセキュリティーズの小松社長の行動力によって実現しました。国連機関を対象とするクラウドファンディングは異例で、面白いムーブメントになりそうです。寄付があつまり、530万人の難民の尊厳が守られることを切に願います。



2018年03月18日

折り鶴教室とTシャツ配布

折り鶴作りをマスターした現地スタッフのマーガレットさん。先週開かれたCHV マンスリーミーティングでは、彼女が初めて講師となり、折り鶴教室を行いました。



ケニアには折り紙がないので、正方形の紙を作るところから説明します。



分からない人には1人1人個別指導も行いました。CHVさんにとっては、初めての折り鶴づくり。なかなか難しかったようで、来月も講座を行うことになりました。折り鶴がCHVさんと結核患者さんをつなぐ架け橋になるといいですね！

また、ミーティングの中では、新たな100人のCHVさんにTシャツが配布されました。1枚1枚丁寧に渡していきます。



早速、着ていただきました！23日の世界結核デーに向けたイベントでは、180人のCHVさんがWe love Tシャツを着て参加します。春日部の大風イベント同様、大盛況になるよう、皆さんのサポートをしていきたいと思えます！



イベントを取り仕切っているアブタさん作成のチラシはこちら。



2018 年 03 月 19 日

国際観光旅客税(出国税)への批判続く ―特定財源化への懸念など―

27 年ぶりの新税となる国際観光旅客税法(出国税)は、去る 2 月 2 日に平成 30 年度税制改正法案とともに国会に上程。衆議院財務金融委員会で審議し、3 月 2 日同委員会において可決され、3 月 9 日衆議院本会議で賛成多数で可決されました。現在参議院へ送られていますが、「森友文書改ざん問題」で同院では議論が進んでいません。ところで、国際観光旅客税(出国税)に関しては、1)道路特定財源のように予算が肥大化し無駄遣いとなる、2)受益と負担の関係が不明確、3)国境を超える活動への課税は地球規模課題に使用すべき、という批判がなされています。



先週の週刊エコノミスト誌に佐藤主光・一橋大学国際・公共政策大学院教授が、上記 1)と 2)の立場から、国際観光旅客税を批判していますので紹介します。佐藤教授は、21 世紀政策研究所(注:経団連の公共政策のシンクタンク)「あるべき税制に関する委員会」委員、「地方分権に関する基本問題についての調査研究会」委員(総務省・財団法人自治総合センター)、内閣府・民間資金等活用事業推進委員会委員なども務めています。

なお、3)についてはこの間国会内の議論で、何人かの議員が取り上げていますので、別途紹介します。

●エコノミスト 2018.03.20

[27 年ぶり新税]国際観光旅客税・森林環境税 “第2の道路特定財源”懸念も＝佐藤主光

2018 年度税制改正で新たな税「国際観光旅客税」の導入が決まった。この税は報道で出国税とも呼ばれた。国による新税はバブル期の地価税以来 27 年ぶりである。19 年 1 月 7 日以降、訪日外国人客が日本から出国するとき、および日本人が旅行などで出国する際に 1 人当たり 1000 円を徴収することになっている。

…中略…

新税は国際観光旅客税だけではない。森林環境税(仮称)も創設されることになった。政府は創設理由を「パリ協定の枠組みの下における我が国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から」と説明する。地方自治体が徴収している個人住民税の均等割り(一定額以上の所得がある場合に一律額で課される部分)に年額 1000 円上乗せされる形を取り、国の地方交付税・譲与税特別会計に払い込まれる。均等割りについては現在、東日本大震災(11 年)後の「復興税」として 1000 円が課されているが、森林環境税は、この復興税が終了する 24 年度から課税される。森林環境税の税収は全額、「間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用」(18 年度与党税制大綱)に充当すべく主に市町村に配分される。

◇受益・負担関係に疑問

これらの新税に共通して掲げられているのが税の「応益性」である。公共サービス・事業の受益者に一定の負担を求めることは公平にかなっているかもしれない。応益課税は課税の根拠を明確にすることで納税者の信認を得る上でも有用だろう。仮に、多くの納税者が受益を感じていないのであれば、対象事業を縮小して課税を縮減すればよい。ここでサービスの受益者＝納税者は(1)高い税を払って受益するか、あるいは(2)低い税にとどめて受益を諦めるかを選択する。

制度上、国際観光旅客税は一般財源(一般会計)向けであるが、使途があらかじめ定められているという意味で目的税にあたる。実際、国際観光旅客税の導入にあたって、基本方針は「受益と負担の関係から負担者の納得が得られること」や「費用対効果が高い取り組みであること」を対象事業の条件に掲げている。財源は国家公務員の人件費などには充当せず、「無駄遣いを防止し、使途の透明性を確保する仕組みとして、行政事業レビューを最大限活用し、第三者の視点から適切なPDCAサイクルの循環を図る」ものとする。

しかし、国際観光旅客税を含む応益課税の実態は全く異なる。税の負担と受益の関係が定かではないことが多い。国際観光旅客税の場合、出国者が受益者であることが想定されているが、実際のところはどうだろうか？ 例えば、基本方針が使途に掲げている「我が国の多様な魅力に関する情報」は日本人の出国者が受益するところではない。訪日客にしてもビジネスや国際会議などを目的としているのであれば、観光関連の施設・インフラを多く享受するとは考えにくい。そもそも、「受益と負担の関係から負担者の納得」(基本方針)を担保する仕組みが整っているわけではない。つまり、応益課税を建前にしても、実態は「取りやすいところから取る」ことになる。

◇予算査定逃れの手法にも

また、財源があることを理由に対象事業が膨張することが懸念される。つまり、財政需要(ニーズ)があるから財源確保するのではなく、財源があるから需要(使途)を拡大させかねない。その典型例が「道路特定財源」であろう。道路特定財源は自動車取得税、自動車重量税などに暫定税率を課して道路の整備・拡充に充てていた。08年度予算における道路特定財源税収の総額は約5兆4000億円に上っていた。しかし、利用ニーズの乏しい道路まで建設されたり、使途がミュージカル制作・上演など道路以外に広がったりしたという批判を受けて09年度に廃止され、暫定税率分は全て一般財源化された。

国際観光旅客税などについても政府は「無駄遣いを防止」するとしているが、財源を使い切るよう対象事業が際限なく拡大するかもしれない。森林環境税についても既に、30府県以上で、個人住民税(均等割り)に対する500～1000円の超過課税として独自に導入が進んできた。こうした府県では屋上屋を架すことになり、そのままでは事業費が膨れ上がることになる。

観光基盤の拡充・強化であれ、森林整備であれ、それらを目的税＝恒久的な財源でまかなうことは必須ではない。仮に国の重要な政策課題であり、「費用対効果が高い取り組み」と評価されるならば、他の政策・事業同様、毎年の予算編成の中で措置すればよいからだ。目的税の本音は国の財政状況が悪化する折、むしろ財政当局の厳しい査定を逃れることになるように思われる。恒久的な財源があると事業を続けたり、拡大させ

たりする格好の口実になりやすい。予算査定も甘くなりがちだ。政府は既存施策の財源の単なる穴埋めはしないとする。しかし、新規事業が新たな財源でまかなえるなら、既存施策の見直しも進まない。事業に優先順位を付けるにしても観光政策等の枠内であり、「部分最適」ととどまる。本来、国の予算配分は観光といった特定の分野にとどまらず、政策全体に目配りをしたものでなければならない。今後も財源を確保しやすい方法として、国際観光旅客税のような目的税は増えそうだが、財政がひっ迫する折に予算を分断させ、かえって、メリハリがあり効率的な、言い換えれば全体最適にかなった配分を損ないかねない。

WORLD TB DAY KITE FLYING EVENT TO GO DOWN THIS FRIDAY

Over last week, Yuko-san and Abuta-san trained some teachers and children on how to make kites ahead of the Friday event. It was interesting to note that the students were really happy to make the kites, and the excitement from them was simply amazing.



We also had a look at the field, and it was expansive enough for us to hold the event there. The teachers were warm and receptive. We could only imagine the assistance they will give to us when the time comes for us to roll out the event.



This week, teachers will train all the students and inform them about TB as a disease, the services given at Kangemi Health Centre, and how they can prevent themselves from infection. We hope to accomplish a good event on Friday.

岡山からの訪問者

本日、岡山の邑久高校教諭、阿部正美様がケニアの子供達への靴を寄付する為に来所されました。



世界凧揚げ交流会@春日部(事前調査)

17日、スタッフで世界凧揚げ交流会イン春日部事前調査を行いました。
視察場所は、明日の交流会の場所である春日部市役所庄和支所及び、
宝珠花地区にある江戸川河川敷です。



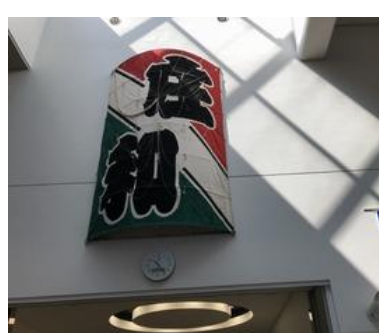
<春日部市庄和支所>



日本一の春日部市大凧の
モニュメント



明日の会場となる庄和公園の前景。
ゲートボール試合中。



庄和支所内の大凧関連展示



庄和支所体育館。雨天時の会場。

<宝珠花地区・江戸川河川敷会場>



大凧関連資材倉庫



大凧作成作業の一部



江戸川河川敷を望む

世界凧揚げ交流会@春日部(報告)

3月18日に開催された世界凧揚げ交流会は庄和大凧文化保存会他、春日部市、出店企業の方々のご協力を得て無事に終了しました。

今回、特に印象に残ったのは事前準備の為、宿泊した幸手の旅館「朝萬」旅館のご主人です。江戸時代からの由緒ある旅館にふさわしい威厳のある方で、我々の事を歓待してくださいました。

幸手の町は日光街道沿いの宿場町の面影を残した落ち着いた街で、事前打ち合わせをした喫茶店は古い蔵を改造した店舗で、ここで飲んだケニア・コーヒーがとても美味でした。

交流会当日は水陸両用バギーが訪れた人たちに大変人気で、来賓の輿水恵一先生も見事なハンドルさばきを披露されていました。穏やかな天気にも恵まれ多くの家族連れも集まり子供たちが凧揚げを楽しんでいました。保存会の方々による凧作り教室も盛況で、多くの家族連れが参加していました。残念だったのは風が余り吹かず保存会の方々に何とか大凧を上げるのに奮闘していただいたものの、少し浮いただけに留まったことです。

世界凧揚げ交流会@春日部(白石編)

昨日(2018年3月18日)、「大凧の里 春日部」にて「世界凧揚げ交流会@春日部」を開催いたしました。当日は老若男女問わず750-800名以上の多くの皆様にご来場いただきました。ありがとうございました。

今年はストップ結核パートナーシップ 日本、国連パレスチナ難民救済事業機関と共催しました。

パレスチナ・ガザ地区では、東日本大震災以来毎年3月に1000名以上の子どもたちが集まり、復興を願い、絆を示すため凧を揚げています。日本リザルツはそれに応え、岩手県釜石市で毎年3月に凧揚げを実施してきました。今年は「大凧の里」と呼ばれ(白石の故郷でもある)埼玉県春日部市にて開催しました。

春日部の大凧は縦15m・横11m・重さ800kgを誇ります。毎年5月5日には、江戸川河川敷にてその大凧を揚げる「大凧あげ祭り」が開催されています。

春日部の大凧の歴史は古く、江戸時代まで遡ります。



天保12年(1841年)出羽の国の僧、浄信が各地巡礼の折、養蚕の豊作占いとして凧あげを伝えたといわれている。これがいつの日か男子出生のお祝として凧あげが行われるようになった。当時各戸であげられていた凧が徐々に大きくなり、明治中頃には現在の大きさの縦15m、横11m、重さ800kgになったという。

(春日部市公式ホームページより)

そして、今年は国連にて結核ハイレベルミーティング、世界結核議員連盟の開催が控える「結核の年」となっております。3月24日が「世界結核の日」であることもあり、結核の啓発活動の意味合いもありました。春日部で大凧の文化を現代に伝える「庄和大凧文化保存会下若組」の協力のもと縦1.8m・横1.4mの「結核凧」を作成していただきました。



また、当日は石川良三・春日部市長、三ツ林裕巳・衆議院議員(メッセージ)、土屋品子・衆議院議員(メッセージ)、奥水恵一・前衆議院議員、尾堤英雄・春日部商工会議所会頭、遠藤久米夫・庄和商工会会長にお越しいただきました。





「世界風揚げ交流会@春日部」は多くの方々の協力のもと開催することができました。ありがとうございました。日本リザルツは、5月5日の「大風あげ祭り」にも参加させていただきます。



2018 年 03 月 20 日

今日はトイレの神様になりました

今日はトイレの神様になりました。

インドでは人口の半数である7億3, 200万人以上が野外排泄を強いられています。家庭にトイレがなく、下水処理も未整備のため、屋外に汚物が放置され、水の汚染、害虫・病原菌の発生が感染症のまん延につな

がっているのです。また、トイレがないことを理由に女性が学校に通えない事例、野外排泄に出た女性が暴行を受けるといった事件、免疫力の弱い子どもたちは不衛生な環境での排泄で下痢になり死亡する事例もあるといわれています。そもそも野外排泄をしている姿を人に見られることは、人間の尊厳を傷つけています。持続可能な開発目標(SDGs)の中では、目標6に「安全な水とトイレを世界中に」と表し、2030年までに全ての人の野外排泄をなくすことを目指しています。国連は11月19日を「世界トイレの日」と定めるなど世界全体でトイレの普及と公衆衛生の改善に向けた動きが進んでいます。こうした中で、日本は国民皆保険制度を導入し、1980年代には世界一の長寿国となりました。その上、日本は、トイレ、公衆衛生の改善を含めた保健分野に関して多くの知見と経験を持っています。今こそ世界一きれいといわれる日本のトイレをインドや世界の公衆衛生改善に活かし、インドのトイレ不足の解消に貢献すべきではないでしょうか。

デコレーション

釜石市内の小中学校は、春休みとなりました。春休みであっても、相談室に多くの児童が来室されています。1日20人以上になる時もしばしば。先日、女子児童10数人が、『相談室が殺風景』とのことで、デコレーションしてくれました。デザインや貼付けは、女子児童のみなさんが担当です。私は、指示に従って、紙を切る役目となりました。



構想、制作に数日かかった力作です！！みなさんの満足げな笑顔が印象的でした。

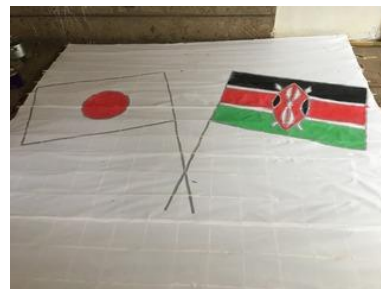
2018 年 03 月 22 日

世界結核デー風作り

3月24日は世界結核デーです。

日本リザルツケニア事務所でも3月23日、ナイロビのスラム居住区であるカンゲミ地区の小学校で、結核啓発活動と風揚げ大会をして、結核予防を呼びかけます。今週も風作りに奮闘しました。

先週に引き続き、まずは風の絵柄をデザインし、溶かしたロウソクを使って下絵を描きます。その後、染料が滲まないようにして、色付けをします。



ケニアチーム長坂さんにも、最後の一笔を入れてもらいました。



その後、尾っぽとなる竹を付けて、タコ糸付けをして完成です。



明日は頑張って揚げてきます！

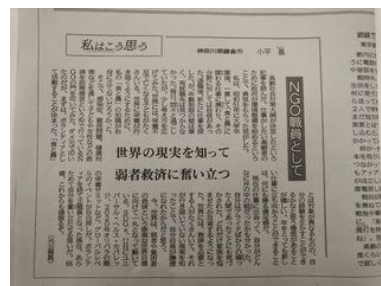


2018 年 03 月 23 日

[メディア掲載] 私はこう思う 公明新聞

日本リザルツスタッフの寄稿が本日付(3月23日)の公明新聞に掲載されました。

「NGO 職員として ー世界の現実を知って弱者救済に奮い立つー」と題し、高齢社会対策大綱が策定されたことにふれつつ、退職後に始めはボランティアとして NGO に入り、その後正職員となった自身の経験と、弱者や貧困社の救済といった世界的な目標の達成に向けて力を注ぐという決意表明について述べています。



2018 年 03 月 24 日

ケニア凧揚げの様子が日本の新聞に！

本日の世界結核の日を記念し、日本リザルツは 23 日、ケニアのスラム街・カンゲミ地区で凧揚げ大会を行いました。その様子を共同通信社さんが取り上げてくれました。記事はこちらです



(以下、共同通信記事引用)。

ケニアの子ども、たこ揚げ結核予防を啓発

【ナイロビ共同】24日の世界結核デーを前に、ケニアの首都ナイロビの貧困地区カンゲミで23日、日本の非政府組織(NGO)が結核予防の啓発イベントを開き、地元小学生千人以上がたこ揚げをしながら、手洗いやうがい大切さを学んだ。

主催したのは、世界の貧困問題などに取り組む「日本リザルツ」。カンゲミ地区で結核の検査施設の建設などに携わっている。この地区では、住民1万人当たり100人以上が結核患者で、結核がまん延しているケニアでも特に多いという。

「結核をなくそう」と書いた小さな紙のたこを各自が作ってグラウンドを走り回ったほか、約3メートル四方の大大こが披露されると子どもたちから歓声が上がった。来年以降も結核デーに合わせてたこを作り、予防を意識してもらう計画という。

小学生のパスカル・バラサ君(12)は「たこ揚げは初めてで、楽しかった。結核になった友だちがたくさんいるので、気を付けたい」と話した。

お忙しい中、スラム街まで来てくださった記者の方。本当に有難うございました！

2018 年 03 月 25 日

結核凧揚げ大会(ケニア・アブタ君大活躍編)

3月24日は世界結核の日でした。この日に合わせ、日本リザルツでは、結核予防を呼びかけるイベントをケニアのナイロビ市のスラム居住区、カンゲミ地区で行いました。今回のリーダーは、日本リザルツナイロビ事務所アブタさんです。



このイベントを取り仕切る為、この1か月間、朝5時に家を出て事務所で6時から準備を行い、頑張っていました。アブタさんはなんと、元ラグビーケニア国代表という経歴を持っています。タフなラグーマンは、今回の風揚げ大会を通じ、イベント成功に向けての準備・努力を惜しまない精神を学んでいました。イベントは無事成功しました。沢山の方々に協力していただき、本当に感謝しています。

お掃除ガールズ結成

日本リザルツはケニアのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを行っています。カンゲミ地区にはごみ収集がこないため、街の至るところにごみが落ちています。悪臭がただよい、こうした衛生環境の悪化が、結核をはじめとする感染症のまん延を引き起こしています。

3月24日の世界結核の日に合わせて、カンゲミ地区の大掃除を行うことにしました。ウエストランド保健省のリリアンさんをはじめとした職員・CHVリーダー（なんと、すべて女性）の方と「お掃除ガールズ」を結成。他のCHVを巻き込んで大清掃活動を始めました。



お掃除ガールズのリーダー、リリアンさんと。双子の息子さんを育てる逞しいお母さんでもあります。

ケニアの方はセルフィー（自撮り）が大好き。より多くの方に自発的に来てもらえるよう、楽しそうな写真をたくさん撮って SNS から全てのCHV に呼び掛けを行います。



もちろん掃除もきちんと行っています！



子どもたちともお掃除を一緒に行いました。カンゲミ地区には、ごみを「ゴミ箱」に捨てる習慣がありません。一緒にお掃除をし、ごみ捨て、ごみ拾いの大切さを呼びかけました。の活動は、来週火曜日まで続きます。ボランティアさんが「楽しい！」と思えるような活動を増やしていきたいと思っています。



2018 年 03 月 26 日

国会の論戦から：国際観光旅客税(出国税)と国際連帯税

国際観光旅客税は26年ぶりの国内での新税創設となりますが、国民的議論もないどころか(少なくともパブリックコメント募集はやるべきであった)、自民党内でも十分な議論なく30年度税制改正大綱に盛り込まれ、そして今国会に上程されています。この税の法案は、衆議院で可決され、現在参議院に送られています。森友文書改ざん問題で審議が止まっています。



●衆議院での質疑／野田佳彦議員(無所属の会)などが追及

ところで、衆議院の財務金融委員会の審議では(2月22日、同月28日、3月2日)、次の議員の方たちが国際連帯税について言及しました。野田佳彦議員(無所属の会)、宮本徹議員(共産党)、岸本周平議員(希望の党)が法案反対の立場で連帯税について発言しました。また、斉藤鉄夫議員(公明党)は法案賛成の立場ですが連帯税に言及しています。また、2月13日の衆議院本会議の代表質問で金子恵美議員(無所属の会)が真っ向から国際連帯税について発言されました。ここでは、2月28日の野田佳彦議員の質疑、同月13日の金子恵美議員の発言を紹介します。とくに、前者の質問に対し星野次彦・財務省主税局長が答えています。一言でいえば、「外務省が具体的な制度設計を出していない、それを出してもらったら検討する」というものでした。これに対し、すかさず野田議員は「外務省から具体的な制度設計の提案があれば検討するということ

すね」と念を押し、一方で国交省や航空業界の国際協力・協調政策への非協力を批判しています。以下、野田議員と金子議員の質疑・発言を紹介します。

●実際の質疑／「最初から国交省や航空業界は反対だったが…」

＜2018年2月28日 衆議院財務金融委員会＞

○野田(佳)委員（野田佳彦議員・無所属の会）

… そもそも、国境をまたぐ人の動きとかお金の動きに課税をするというやり方は、考え方としてはありました。それは国際連帯税であるとか、あるいは国際航空券税など、そういう議論はありました。2009年ぐらいからこういう提案があって、旧民主党の時代では、これは税調の大きな議題として議論をし、そして税制改正大綱の中には検討項目としていつも入っていたというふうに思うんです。

それが、残念ながら、平成25年の税制改正大綱からすっぱり抜け落ちて、6年連続抜け落ちていますね。抽象的な表現では、こういう国境を越えたものに対する課税のあり方についての必要性みたいな議論は書かれていると思うんですが、いわゆる国際連帯税みたいなものは、項目としては消えました。

やはり、国境を越えた動きに対して課税をするというのは、最終的には、地球温暖化対策であるとか、感染症対策とか、そういうグローバルな課題で国際協調の路線の中でやらなければいけない施策があったときに考える税目だと思うんですね。これは、私は、依然として議論としては必要だというふうに思っているんですが。そこで、まずお尋ねしたいんですけれども、この国境を越える地球規模の課題の解決に税收を充てるという国際連帯税、国際航空券税の議論は、現在、今どうなっているんですか。御説明をいただければと思います。

○星野政府参考人(星野次彦・財務省主税局長)

お答え申し上げます。

御指摘の国際連帯税、一般的には、御指摘のとおり、感染症対策、また貧困問題、環境問題等々、地球規模の問題への対策のための財源確保を目的とした税ということで議論をされてきたと認識しております。

先ほど御指摘がございましたとおり、民主党時代の税制改正大綱に載っていたりとか、また、税制抜本改革法の第七条第七号におきまして、「国際連帯税について国際的な取組の進展状況を踏まえつつ、検討する」とされておりまして、この導入に当たっては、課税の目的、また範囲、効果、執行可能性などの点にも留意しつつ検討していく必要があると考えております。

これまで、毎年度の税制改正プロセスの中で、外務省から、国際連帯税に係る税制改正要望の提出を受けてきたところではございますけれども、具体的な制度設計の提案については提案をいただいていないという状況が続いておりました。

本件については、まずは担当省でございます外務省におきまして、諸外国の事例等も参考にしつつ、具体的な制度設計の案を検討していただき、その上で財務省としても検討していくという手順を踏む必要があると考えております。

○野田(佳)委員

外務省から具体的な制度設計の提案があれば検討するということですよ。

外務省の努力も必要になるかもしれませんが、比較的、この国際連帯税については、はなから国交省とか航空業界は反対の意見が強かったと思います。いわゆる今回の出国税の形式と同じなんですよ。形式

は同じなのに、いわゆる国際協調路線で何かやることについては、業界の反対もある、国交省も反対をされる。今回の観光立国に向けての政策だと、同じ出国税なのに、何かするすると出来ちゃう。非常に私は違和感を感じているということをまず申し上げたいというふうに思います。…以下、省略

＜2018年2月13日衆議院本会議＞

○金子恵美君 無所属の会の金子恵美です。

ただいま議題となりました所得税法等の一部を改正する法律案及び国際観光旅客税法案につきまして、会派を代表して質問いたします。

…国際観光旅客税、いわゆる出国税については、観光立国実現に向けた観光基盤の拡充強化を図るとの看板は美しく見えますが、本来、地方経済の活性化等の観点から、観光インフラや観光資源の整備促進のための財源は一般財源に求めるべきです。

出国税など、国境を越える人や金融資本の移動にかけられる税は、これまでの国際連帯税の議論や諸外国の導入実績等も踏まえ、主として、気候変動や感染症対策などの国境を越えた地球規模課題への対策にこそ使われるべきと考えます。

1992年に導入された地価税以来の新税であるにもかかわらず、十分な検討なく取りまとめられた国際観光旅客税は、なぜ日本人出国者にも負担を求めるのか、なぜ出国一回につき千円という水準なのか、なぜ来年一月七日から適用という性急過ぎる時期が設定されているのか、全くわかりません。総理の明確な説明を求めます。

アブタさん、憧れのアウオリ社長に初対面

本日26日、現地スタッフのアブタさんと一緒にケニア・トヨタのデニス・アウオリ社長のもとを訪問しました。アウオリ社長は、元駐日ケニア大使で、白須代表の古くからの友人です。日本リザルツがケニアで活動を行うにあたって、非常にお世話になっている「リザルツ応援団」のお一人です。

特に、TICAD IV では、ケニアのエイズ・結核活動家のルーシー・シェジェレ氏(後に世界基金理事に就任)と当時のアウオリ大使の協力で、本会議の演説において、当時のムワイ・キバキケニア国大統領がアフリカ諸国の首脳として唯一、結核対策の必要性に言及されました。この結果、TICAD の宣言文「横浜行動計画」において、結核対策が盛り込まれ、日本の結核抑止への支援が大幅に進んだのです。



心優しいアウオリ社長。海外出張から帰国直後にも関わらず、お忙しい合間を縫って、訪問の機会を作ってくださいました。日本リザルツのケニアでの取り組み、直近の活動状況などをご報告させていただきました。アウオリ社長は、ケニアでも有名人。現地スタッフのアブタさんにとっては「ロールモデル」だということで、今回、同席してもらいました。

最後は、アウオリ社長と記念写真。

憧れの人に初対面したアブタさん。嬉しそうな表情が印象的でした。

多くの人に支えられて日本リザルツの活動が実施されていることを改めて実感した一日でした。

THE KITE FLYING EVENT THAT WAS

On Friday, over 2,100 students gathered at the Kihumbuini grounds in Kangemi to fly over 2,000 kites to mark the world TB day. The event went down as from 2 pm through 4 pm.

A number of partners joined in who included MDM, KAVI, Ujuzi Fursa, Dettol Kenya and Westlands Health Centre to mark the World TB day with the children.



The big kite drew of attention as Mr. Shingo Fujinami flew it over as over 4200 eyes looked at it fly into the space.



We wish to express our gratitude to the children from the primary schools who joined in this event, for their willingness to mark the day in such an interesting twist.



Many thanks to those who supported us through the event, especially the teachers of the schools.



2018 年 03 月 27 日

スナミ症対策の靴

全国の皆様から送られてきた靴は今リザルツの会議室でケニアの子供達に送られる日を待っています。



2018 年 03 月 28 日

カンゲミ結核検査所工事

日本リザルツはケニアのスラム街・カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。現在、より良い医療サービスを実施するために結核検査所を建設しています。基礎工事も無事に終わり、1階部分の柱・壁を作っていきます。



1階部分の部屋の仕切りを、ブロックを積み上げて作っていきます。ここで間違えると全てやり直しになるので、寸法などを細かくチェックします。



材料(ブロックなど)は大型ダンプで運搬をします。人力作業の無駄がないように材料を搬入するためです。



1階部分の壁・部屋の仕切りが終わると、2階の工事が始まります。型枠(コンクリート形状を形作る木の枠)を組み、鉄筋を組み合わせます。





この日は、ケニアスタッフのアブタ君もカンゲミの小学校との打合せの後に、工事現場に立ち寄ってくれました。工事がみるみるうちに進んでいくようすを、興味津々で確認していました。



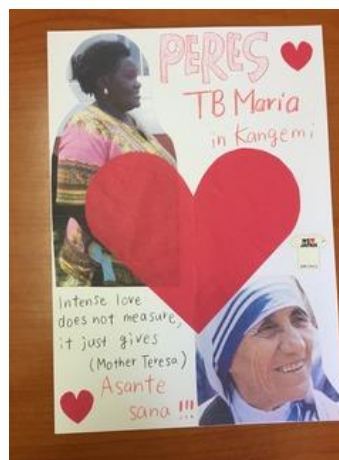
PULMONARY TB IN KENYA

Last week, the Daily Nation did a commentary piece which I had written a week earlier, about the systems in the Kenyan Health agenda, in solving TB as a disease. Whilst I speak of the challenges, and the appalling statistics, we are reminded of the imminent danger of the disease if the government does not take it into consideration. In that light, I highlight policy areas that need to be beefed up to make the fight against this communicable disease successful.



スラム街のマザーテレサにサプライズ！

日本リザルツはケニアナイロビのスラム街カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。活動は、ウエストランド州の保健省と協力をして行っています。結核部門の責任者はペレスさんといいます。普段の活動はもちろん、3月24日の世界結核の日に合わせて行った風揚げイベントでも、CHV への声かけ、保健省や関係機関との交渉に際し、色々ご指導いただきました。いつもお世話になっている彼女に何かできないか。皆で寄せ書きをすることにしました。

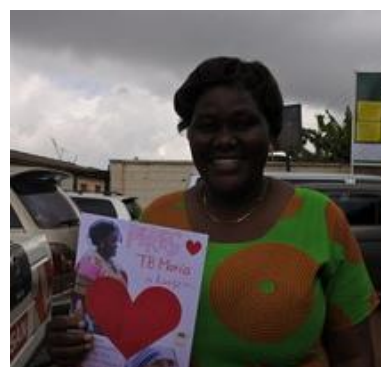


オリジナルの寄せ書きフォームを作りました。ケニアの方はクリスチャンが多いので、結核抑止のマリア様に感謝の気持ちを示した上で、ペレスさんを「カンゲミのマザーテレサ」と命名しました。



ケニアには 40 以上の部族があります。CHV のアイデアで、それぞれの部族の言葉で、ペレスさんにメッセージを入れることにしました。

ペレスさんもこれにはびっくり！手作りのメッセージカードを大変喜んでくださいました。「カンゲミのマザーテレサ」を筆頭に、結核で亡くなる患者さんをゼロにするよう、180 人のボランティア、行政の皆さんと一致団結して、活動に励みたいと思います。



青葉通りこどもの相談室

平成30年3月31日をもちまして、釜石市保健福祉部子ども課委託事業【平成29年度被災した子どもの養育相談支援事業】が事業終了することとなりました。次年度以降、行政が主体となり相談室を継続していく予定となっております。事業終了に伴い、私も日本リザルツを卒業することとなりました。平成29年9月から【青葉通りこどもの相談室】の相談員として、釜石の子ども達を通じ、多くの経験をさせていただきました。数多くの方々に、ご指導ご鞭撻およびご協力いただいたこと、感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

来室児童が応援メッセージを描いてくれました。今後も釜石市に暮らしている子ども達へ、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



2018 年 03 月 29 日

渋谷教授の熱中授業(66 道場の提案について)

平成30年3月28日16:00～16:30、東京大学医学部国際保健政策学教室渋谷健司教授をお招きして、「66グローバル人材育成道場」の創設について討論会を行いました。参加者は、当法人若手職員と熟練職員、

外部から、筆者の後輩(熟練職員)を招聘しました。尚、今回は、若手の外部参加者として学生さんを予定しましたが、就活で忙しいため、若手は当法人の若手職員1名となりました。渋谷教授には、お忙しい中駆けつけて頂き、忌憚のないご意見を頂戴しました。東大の熱中講義さながらの白熱した討論となりましたこと、本当に感謝いたします。

さて、筆者の後輩は、アジアにおけるゼネコンに関して豊富な経験を持つ熟練者です。現在、ミャンマーの人材(エンジニア系)の活用により日本国内のエンジニア不足に対応する人材派遣企業に参画しています。若手職員のS君と小生に対し、日本は人材が不足している部門も多くあるため、熟練人材の活躍の場はあるという現状をご教示いただきました。お越しいただいたK君は筆者学生時代に漕艇部で一緒に戦った仲間です。40年経った今でも実業界に疎い筆者を助けに来てくれました。そんな後輩を持ち、幸せです。K君本当に有難う。もう一名の同期からは応援メッセージも頂戴しました。

渋谷教授から、下記のコメントを頂き、提案者である筆者は大いに学ぶ点がありました。これから提案をブラッシュアップしていきたいと思います。なお、渋谷先生から帰り際に、『『道場』という言葉はやや古めかしいが、若手と熟練者、熟練者の社会貢献への思いを实践する場というコンセプトは素晴らしい。ここは活かしていきましょう。』というお言葉を頂戴し、筆者は大変感激しました。

○66才という年齢の区切りは、せつかくのこの提案が、高齢者就職斡旋事業、さらに言えば、市場価値の低減した高齢者の救済事業を意味することにもなってしまうのではないかと。定年後、職がないというが(筆者のことを指す)、現に高齢者が市場から隔絶される傾向にある背景には、国内市場の求めるニーズに高齢者が追いつけないと言う面もある。60才過ぎでも仕事を求める者は、「研修」により自分を磨き、若い時に身につけたノウハウを活かすことが大切だ。まずは、国内でも市場ニーズにマッチするような努力も必要だ。

○途上国においては、日本の高齢者がシルバーボランティアという形で、アジア・アフリカに知識と経験を共有することが可能である。政府が提案しているアジア健康構想は、アジア諸国の支援という視点もあるが、人材不足を抱える国内産業の高度化と還流が背景にある。高齢者であっても若手と一緒に、更なる能力強化を行うことで、アジア健康構想の人材の一翼を担えるチャンスがある。

高齢者層と若手が共に取り組むと言う手法もある。高齢者は、高度経済成長期での一時代を形成した経験・強みがあることも事実であり、若手にはない強みを持つ。若手は、IT時代世代である。センスも異なる。若手が国内・国外市場に円滑に参入するために、高齢者の経験が活かせる。若手と高齢者がWIN—WINの関係を目指すのもアイデアである。

日本政府は最終的には日本国内にアジア健康構想戦略の成果を還元、日本経済の活性化を図ろうとしている。そのためには、「老若男女がアジア・アフリカを基点として活躍することで、人材として成長し、日本市場における価値を上げることで、日本に還元させる」といった全体戦略に、この提案を組み込むことができないだろうか。

桜

皆様、桜があちこちで満開ですね。本日は三久ビルの裏の公園に咲いた桜の写真を投稿します。ソメイヨシノではなく、丸い可憐な花です。記事投稿後に桜の名前がわかりました。イチヨウザクラ(一葉桜)とのことでした。



アブタさんの投稿がケニアの全国紙に！

日本リザルツケニア事務所のスタッフ、アブタさんの投稿がケニア全国紙の「Daily Nation」に掲載されました（3月23日付）。「Daily Nation」は、Standard と並ぶケニア2大紙の1つで、日本でいえば、読売新聞です。

こちらがアブタさん。法被がお似合いです。ケニア風揚げイベントを取り仕切ってくださいました。



こちらがアブタさんの記事です。

ケニアの政治家を目指すアブタさん。アブタさんは、記事の中で、ケニアの保健行政が財政難であることを指摘した上で、ケニア政府自身に結核抑止に対して予算の拠出を呼びかけています。具体的には、2016年～2017年度の国家結核プログラムの実施に必要な予算である5,400万USDのうち、たった29%しか資金が拠出されていないことを指摘しています。さらにひどいことに、この29%のうち、わずか3%しか、ケニア政府は予算を拠出しておらず、残りの26%はグローバルファンドや日本をはじめとする各国政府のODAに依存しているというのです。その上で、アブタさんはケニア政府に対し、4つの政策提言を行っています。



- ①ケニア政府が次年度予算を早急に見直し、国家結核プログラムを履行できる予算を確保すること
- ②ケニア保健省の予算配分をモニタリングし、より効果的な財政配分を行うと同時に、コスト削減を実施すること
- ③政府、国会議員などの政策立案者に結核に対する関心を高めるためのアドボカシー活動を行うこと
- ④誰一人取り残さない社会を目指すため、難民や貧困層なども含めた全ての人たちが医療サービスを受けられる仕組みを作ること

最近、掲載記事をオフィスの壁に貼っています。そのうち、壁が記事で埋め尽くされる日がくるかもしれません！アブタさんの記事はSNSやメールで、CHV やウエストランド保健省にも共有させていただきました。皆さ



ん、興味深く記事を読んでもうございました。この記事がきっかけとなり、ケニアの保健行政が改善されるといいですね。

議員連盟合同による栄養シンポジウムの開催報告書を発送しました。

本年1月25日に衆議院第一議員会館国際会議室にて開催されました議員連盟合同による栄養シンポジウム「適切な栄養をすべてのお母さん、子どもたちに!」(呼びかけ人:国際母子栄養改善議員連盟、参加者250名)の開催報告書を発送しました。



2018 年 03 月 30 日

カンゲミ・マザーテレサの輪が広がる!

先日、日本リザルツが結核抑止プロジェクトでお世話になっているウエストランド保健省のペレスさんに感謝の気持ちを込めて寄せ書きを贈呈させていただきました。

こちらがペレスさん。ウエストランド保健省の結核担当です。



その話を写真付きで SNS で配信したところ、なんと多くの CHV やカンゲミヘルスセンターの方からいいね！をいただきました。



コメントも沢山！本日、ケニアは祝日ですが、コメント、いいね！が止まりません。

心優しいペレスさん。1件1件のメッセージ、全てに返信をされていました。患者さんだけでなく、CHV、職員にも慕われているペレスさん。まさにカンゲミ地区のマザーテレサですね！

2018年03月31日

川田龍平議員:国際観光旅客税に対する質問趣意書提出＞連帯税的要素を入れよ

準日切れ法案として提出されていた国際観光旅客税(ならびに外国人観光旅客の旅行の容易化等の促進による国際観光の振興に関する法律の一部を改正する法律案)は、森友改ざん問題で審議が大幅に遅れ、年度を繰り越すことになりました。この法案に対して、川田龍平議員は参議院予算委員会で質疑を行う予定でしたが、改ざん問題が優先されましたので、質問趣意書を一昨日提出しました。



<解説>

趣意書の趣旨はタイトルにもありますように「国際観光旅客税の使途に感染症対策を含めるべき」というものです。法案(一部改正案の方)は使途について、観光インフラ整備と並んで「最新技術活用などのCIQ(税関、出入国管理、検疫)体制の整備」等を謳っています。これは受益と負担との関係で、出国日本人(正確には日本居住者)はほとんど受益しないための苦肉の策と言ってよいでしょう(CIQ整備はふつうは必要に応じて国交省関係予算からの支出で賄うもので、必ずしも国際観光旅客税収によらなくてもよい)。

しかし、CIQ整備以前に考えなければならないことがあります。それは国境を超える人・モノの移動には、それが大量になればなるほど感染症の伝播という負の影響も高まってきます(温室効果ガスの大量排出も)。グローバル化が必ずしも利便性・効率性だけをもたらすものではないのです。

いずれにせよ、もし3年前の韓国で起きた中東呼吸器症候群(MERS)のような新興感染症が国内で広がった場合、訪日観光客は激減するでしょう。従って、国内のみならず国外での感染症対策は観光インフラやCIQ整備と並んで行わなくてはならない事業なのです。実際、この旅客税による税収が国外の感染症対策にも使

用されることになれば、SDGs(持続可能な開発目標)の目標3に大いに資することになるでしょう。

国際観光旅客税の使途に感染症対策を含めるべきことに関する質問主意書(提出番号54番)

参議院議員川田龍平

2018年3月29日提出

政府は2020年に訪日外国人旅行者数を4千万人とする目標を掲げているが、訪日外国人旅行者が多くなればなるほど、国外から感染症が持ち込まれるリスクが高まる。中東呼吸器症候群(MERS)のような新興感染症が国内で広がった場合、訪日外国人旅行者数が減少する影響だけで経済損失が2.7兆円生じ、観光業などでの雇用が58万人失われるとの試算がある。

外務省が税制改正要望において、国際連帯税(国際貢献税)の新設を平成22年度から平成30年度まで9年も続けて要望している中、政府は国会に国際観光旅客税法案(第196回国会閣法第2号)及び外国人観光旅客の旅行の容易化等の促進による国際観光の振興に関する法律の一部を改正する法律案(第196回国会閣法第4号)を提出したので、以下、質問する。

一 「国際観光旅客税(仮称)の使途に関する基本方針等について」(平成29年12月22日観光立国推進閣僚会議決定。以下「基本方針」という。)では、国際観光旅客税の充当先の一つとして「ストレスフリーで快適に旅行できる環境の整備」が挙げられているが、ここにいう「環境の整備」に感染症対策も含めるべきではないか。

二 感染症の元を絶つため、国際観光旅客税の使途を国際的な感染症対策にも広げるべきではないか。

三 国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)の目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」では、「2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに、肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する」ことが掲げられている。我が国の「SDGs実施指針」における優先課題の一つである「健康・長寿の達成」では、具体的施策の例として「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画の推進」が挙げられている。基本方針では、2019年度以降の国際観光旅客税の使途は、外務省も参加する観光戦略実行推進タスクフォースで検討する旨定められているが、国際観光旅客税を国内だけでなく海外での取り組みにも充てられるよう検討するべきではないか。

右質問する。

【注; 答弁書は4月6日予定。なお、主意書の数字は漢数字だが、見易くするために算用数字に直しています】

★写真は、参議院予算委員会で質問する川田龍平議員(3月16日)